



亀中だより

No.37 卒業記念号

令和7年2月28日 文責 岡田



For The Students!

絵本「おおきな木」 シェル・シルヴァスタイン作（あすなろ書房）

1932年アメリカ生まれの作家シェル・シルヴァスタインの書いた絵本です。ご存じでしょうか。日本では1976年に本田錦一郎氏が、また2010年には、村上春樹氏が訳者となって出版されています。

あらすじ…

あるところに、一本の木がありました。その木は一人の少年のことが大好きでした。少年は毎日その木のもとへやってきて、色々と遊びました。

時間が流れ、少年は大きくなり、木は独りぼっちになることが多くなります。ある日少年が木の下にやってきました。木は「いらっしゃい、ぼうや。私の木陰で遊んで、幸せにおなりなさい」と言いますが、「もう木登りをして遊ぶ年じゃないよ」と少年。「物を買って楽しみたいんだ、僕にお金をちょうだい」という少年に木は、「りんごを持っていきなさい、それを町でお売りなさい」といいます。少年は木の言う通りあるだけのりんごを運んで行き、木はそれで幸せになりました。

長い間姿を見ない日が続いた後、ある日少年はやってきました。木の遊びの誘いに「ぼくには温かく暮らせる家があるんだ、ぼくに家をちょうだい」といいます。木は「私の枝を切って、それで家を作ればいいわ」と言います。少年は枝を運んで行って家を作りました。木は幸せでした。

また長いときがあいたあと、少年がまた戻ってきました。木の遊びの誘いに「ぼくは遊ぶには年を取りすぎているし、心が悲しすぎる。ここじゃない遠く運んでくれる船が欲しい。僕に船をおくれよ」と少年は言います。木は「私の幹を切って船を作りなさい」というと少年は幹を切り倒し、船を作って旅立ちました。

随分長い時間のあと少年はまた戻ってきました。木は「ごめんなさい、私にはもう何もないの。あなたにあげられるものが」というと、少年は「ぼくはもう、特に何も必要とはしない」と言いました。「腰を下ろして休める静かな場所があればいい」というと、木は「私にお座りなさい」というのでした。



あすなろ書房：利用許可申請済

「愛すること」と「与えること」の意味ってなんだろう…

当然の話ですが、絵本って一般的に幼い子ども向けに書かれたものですよ。しかし、この絵本の持つメッセージを感じ取ることができるのは、いったい何歳くらいからなのでしょう…。あと数日で中学校を卒業し、大人への階段を上る3年生のみなさん、みなさんはこれまで家族をはじめとするたくさんの人から、たくさんの愛情を受けて育ってきました。そこには“無償の愛”ともいえる見返りを期待しない深い愛情もあったことでしょう。あなたはこれまでに受けてきた愛にどのように応えてきたでしょうか。この本が家族や友達と話し合ういい機会になればと思います。

いよいよ卒業ですね…。亀山中学校はこれからもみなさんを応援しています。卒業の日まであと7日…。(PS:3年生の卒業後も3月中に2回ほど学校だよりを出します。卒業式なども記述するので見てください)